《博士後期課程》

Ⅱ　専門科目

Ⅱ－ｉ　看護学分野

コミュニティヘルス看護学特論　・・・・・・・１

ヘルスプロモーション看護学特論　・・・・・３

看護学特別研究Ⅰ　・・・・・・・・・・・・・５

看護学特別研究Ⅱ　・・・・・・・・・・・・・７

看護学特別研究Ⅲ　・・・・・・・・・・・・・９

授業科目	コミュニティヘルス看護学特論	科目英語表記	Advanced Community Health Nursing		
職名、担当教員氏名	教　授　菅原　京子 学　長　上月　正博 教　授　安保　寛明 准教授　鈴木　育子				
科目責任者氏名	安保　寛明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士後期１年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	今日の複雑多岐に渡る健康課題の解決のためには、人々の生活共同体であるコミュニティを基盤にしたヘルスケアを展開することが求められる。そこで、コミュニティの多様な状況と人々の健康を統合的に捉え、コミュニティを基盤にしたヘルスケアを展開する方法について深く学び、コミュニティヘルスの発展に寄与する看護の役割について探求する。				
到達目標	1.文献や自己の経験から、健康課題の複雑多岐な状況について実感できる。 2.がんや生活習慣病について、それらの病態に関する最新の知見や地域特性を踏まえて、今日的な課題を説明できる。 3.精神的健康について、歴史的視点を踏まえて今日的な課題を説明できる。 4.在宅ケアについて、歴史的視点を踏まえて今日的な課題を説明できる。 5.がんや生活習慣病、精神的健康、在宅ケアにおける複雑多岐な状況について、討議を通して具体的に表現することができる。 ・がんや生活習慣病と保健医療連携 ・精神的健康に関する課題と地域住民の理解 ・在宅ケアに関する課題と保健福祉サービスの質と量 6.複雑多岐に渡る健康課題に対するコミュニティを基盤にしたヘルスケアの展開方法について、看護学及び関連分野の知見から具体的に説明できる。 ・地域看護診断を用いたコミュニティの特性に応じた活動展開 ・コンコーダンスによる治療同盟の構築や複合健康問題への援助 ・訪問看護による在宅療養支援、地域での生活を支える看護 ・フランスの在宅ケアから学ぶ共生を支える看護 7.複雑多岐に渡る健康課題を解決するためのコミュニティヘルスの発展に寄与する看護の役割について具体的に述べることができる。				
成績評価方法	・レポート①（30%）：到達目標のうち、2、3、4のいずれか1つのテーマを選び、レポートを書いてください。テーマの内容を理解しているか、を判断基準とします。 ・プレゼンテーション作成資料（30%）：作成資料が到達目標5に関して達成しているかを判断基準とします。 資料作成については、授業のなかで指示します。 ・討議への参加（10%）：到達目標5の討議の場面で、自分の意見を述べることができているか、他者の意見を踏まえて発展的に思考できているか、を判断基準とします。 ・レポート②（30%）：到達目標6・7に関する内容のレポートです。コミュニティヘルスに寄与する看護について具体的に述べることができているか、を判断基準とします。				
成績評価基準	到達目標　2～6 特に優れている　　：内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる 優れている　　：内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる 良好である　　：内容を理解し、論理的に正しく概ね説明できる 最低限の到達　　：一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる 目標に到達していない：説明できない				
授業形式	講義（対面と遠隔の両方をもちいる。）				

授業計画

回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	オリエンテーション	複雑多岐に渡る健康課題とは	討議	自己の経験の振り返り	菅原、上月、安保、鈴木
2	コミュニティヘルス上の主要な健康課題①	がんに関する臨床病理学的話題、地域特性、今日的課題	講義	がん対策を確認する	上月
3	コミュニティヘルス上の主要な健康課題①	生活習慣病の病態に関する臨床病理学的話題、地域特性、今日的課題	講義	生活習慣病対策を確認する	上月
4	コミュニティヘルス上の主要な健康課題②	精神的健康に関する課題（歴史と今日的課題）	講義	精神保健福祉対策を確認する	安保

5	コミュニティヘルス上の主要な健康課題②	在宅ケアに関する課題（歴史と今日的課題）	講義	在宅ケアに関する対策を確認する	鈴木
6	健康課題の複雑多岐な状況の討議	がんや生活習慣病と保健医療連携	討議	プレゼンテーションの準備	菅原、上月、安保、鈴木
7	健康課題の複雑多岐な状況の討議	精神的健康に関する課題と地域住民の理解	討議	プレゼンテーションの準備	菅原、上月、安保、鈴木
8	健康課題の複雑多岐な状況の討議	在宅ケアに関する課題と保健福祉サービスの質と量	討議	プレゼンテーションの準備	菅原、上月、安保、鈴木
9	コミュニティを基盤にしたヘルスケアの展開方法	地域看護診断を用いたコミュニティの特性に応じた活動展開	講義、討議	地域看護診断の確認	菅原
10	コミュニティを基盤にしたヘルスケアの展開方法	コンコーダンスによる治療同盟の構築	講義、討議	コンコーダンスの確認	安保
11	コミュニティを基盤にしたヘルスケアの展開方法	コンコーダンスによる複合健康問題への援助	講義、討議	コンコーダンスの確認	安保
12	コミュニティを基盤にしたヘルスケアの展開方法	訪問看護による在宅療養支援	講義、討議	訪問看護サービスの確認	鈴木
13	コミュニティを基盤にしたヘルスケアの展開方法	地域での生活を支える看護	講義、討議	地域での生活を支える看護職の役割の確認	鈴木
14	コミュニティを基盤にしたヘルスケアの展開方法	フランスの在宅ケアから学ぶ共生を支える看護	講義、討議	フランスの在宅ケアの確認	菅原
15	まとめ	コミュニティヘルスの発展に寄与する看護の役割	討議		菅原、上月、安保、鈴木
日付					
毎週金曜日１限目					

教科書	
参考書	・Elizabeth T.Anderson ed：Community as Partner Theory and Practice in Nursing ・福原宏幸：社会的排除・包摂と社会政策（シリーズ・新しい社会政策の課題と挑戦）、法律文化社、2007 ・川越博美,山崎麻耶,佐藤美穂子総編集：最新訪問看護研修テキスト.日本看護協会出版会、石垣和子,金川克子監修：高齢者訪問看護の質指標　ベストプラクティスを目指して.日本看護協会出版会、訪問看護業務の手引き：社会保険研究所
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士後期１／博士後期２／博士後期３
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菅原：研究室7　ksugawara@yachts.ac.jp　上月：学長室　kohzuki@yachts.ac.jp 安保：研究室15　hambo@yachts.ac.jp　鈴木：研究室8　isuzuki@yachts.ac.jp
備考	本科目は看護学分野の専門科目ですが、複雑多岐に渡る健康課題に対応していくためには、学際的な討議の力も重要になります。

授業科目	ヘルスプロモーション看護学特論	科目英語表記	Advanced Health Promotions Nursing		
職名、担当教員氏名	教　授　桂　　晶子 教　授　遠藤　恵子				
科目責任者氏名	桂　晶子				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士後期１年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	ヘルスプロモーションの概念と今日的意義を理解し、個人・集団の健康とQOL向上を図るためのヘルスプロモーションの活用方策を看護学および看護実践の視点から探求する。				
到達目標	1. ヘルスプロモーションの概念やヘルスプロモーションに関連する理論・事象を最新の状態で理解できる。 2. ヘルスプロモーションの今日的意義を説明できる。 3. ヘルスプロモーションに関する国内外の実践活動や研究動向を説明できる。 4. 自分の研究領域において、個人・集団の健康とQOL向上を図るためのヘスプロモーションの活用方策を考察できる。				
成績評価方法	・プレゼンテーションおよび討議：70％　（到達目標1～3評価） ・レポート：30％（到達目標4を評価）				
成績評価基準	到達目標1～3 特に優れている　　：資料・討議内容は極めて論理的かつ適切であり、取り組む姿勢も申し分ない。 優れている　　：資料・討議内容は論理的かつ適切であり、取り組む姿勢もよい。 良好である　　：資料・討議内容は概ね適切である。 辛うじて到達している：資料・討議内容の水準は目標到達に必要な最低限程度である。 到達していない：　　：資料・討議内容が不十分であり目標到達水準を満たしていない。 到達目標4 特に優れている　　：極めて論理的かつ適切・的確な記述内容であり、それを期限内に提出した。 優れている　　：論理的かつ適切・的確な記述内容であり、それを期限内に提出した。 良好である　　：概ね適切な記述内容であり、それを期限内に提出した。 辛うじて到達している：記述内容は目標到達に必要な最低限程度である。 到達していない　　：記述内容が不十分である、あるいは未提出である。				
授業形式	授業は原則対面にて行います。				

授業計画

回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	ヘルスプロモーションとは	ヘルスプロモーションの概念と発展	講義	既習知識を復習し授業に臨む	桂
2	ヘルスプロモーションとは	ヘルスプロモーションの概念と発展	〃	〃	桂
3	働く世代とヘルスプロモーション	生活習慣病予防・健康づくり	講義・プレゼンテーション・討議	プレゼンテーション準備	桂
4	高齢者とヘルスプロモーション	介護予防・健康づくり	〃	〃	桂
5	次世代育成とヘルスプロモーション	育児支援、子ども虐待予防	講義・プレゼンテーション・討議	プレゼンテーション準備	遠藤
6	次世代育成とヘルスプロモーション	育児支援、子ども虐待予防	〃	〃	遠藤
7	次世代育成とヘルスプロモーション	セクシュアリティ、性教育	講義・プレゼンテーション・討議	プレゼンテーション準備	遠藤
8	次世代育成とヘルスプロモーション	セクシュアリティ、性教育	〃	〃	遠藤
9	ヘルスプロモーションの演習	関心領域におけるヘルスプロモーション関連概念の検討①	演習・プレゼンテーション・討議	プレゼンテーション準備	桂 遠藤
10	ヘルスプロモーションの演習	関心領域におけるヘルスプロモーション関連概念の検討②	〃	〃	桂 遠藤

11	ヘルスプロモーションの演習	関心領域におけるヘルスプロモーション関連概念の検討③	〃	〃	桂 遠藤
12	ヘルスプロモーションの実践活用の演習	ヘルスプロモーションに関する国内外の実践活用の検討①	演習・プレゼンテーション・討議	プレゼンテーション準備	桂 遠藤
13	ヘルスプロモーションの実践活用の演習	ヘルスプロモーションに関する国内外の実践活用の検討②	〃	〃	桂 遠藤
14	ヘルスプロモーションの研究活用の演習	ヘルスプロモーションに関する国内外の研究のクリティークと研究活用の検討①	演習・プレゼンテーション・討議	プレゼンテーション準備	桂 遠藤
15	ヘルスプロモーションの研究活用の演習	ヘルスプロモーションに関する国内外の研究のクリティークと研究活用の検討②	〃	〃	桂 遠藤
日付					
毎週金曜日１限目					

教科書	指定しません。
参考書	授業の中で随時紹介します。
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士後期１／博士後期２／博士後期３
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	桂　晶子：研究室9　skatsura@yachts.ac.jp 遠藤恵子：研究室20　kendo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	看護学特別研究Ⅰ	科目英語表記	Specialized Graduate Research in Nursing Ⅰ		
職名、担当教員氏名	教　授　菅原　京子 教　授　桂　　晶子 教　授　遠藤　恵子 教　授　安保　寛明 教　授　齋藤　美華 准教授　鈴木　育子				
科目責任者氏名	安保　寛明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士後期１年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択（選択必修）		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	看護学分野の研究指導教員が、コミュニティヘルス看護学又はヘルスプロモーション看護学の視点で研究課題、研究計画に関する指導と支援をする。具体的には、主研究指導教員と副研究指導教員に加えて、院生の研究課題、研究計画に沿って、関係教員が加わりチームを構成して指導に当たる。				
到達目標	1.出願時の研究テーマ（仮）に関する文献を、幅広くかつ深く収集できる。 2.収集した文献を、コミュニティヘルス看護学又はヘルスプロモーション看護学の視点を踏まえて批判的に検討できる。 3.上記の過程を通して、博士論文における研究課題を明確化できる。 4.博士論文における研究課題の研究動機、研究背景、先行研究の状況を具体的に説明できる。 5.博士論文における研究課題の研究目的と意義を具体的に説明できる。 6.研究課題を解明するための適切な研究計画を検討し、立案できる。 7.自己の研究課題、研究計画を発表できる。				
成績評価方法	授業への参加状況（30%）、準備状況（30%）、発表・討議（40%）をレポートで評価する				
成績評価基準	到達目標　1～7 特に優れている　　：研究活動の内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に十分実践できる 優れている　　：研究活動の内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に概ね実践できる 良好である　　：研究活動の内容を理解し、論理的に正しく概ね実践できる 最低限の到達　　：研究活動について一部不十分な所もあるが、ある程度実践できる 目標に到達していない：研究活動を実践できない				
授業形式	演習				

授業計画

回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	1回目　オリエンテーション 2～8回目　研究ゼミナール 9回目　研究課題、研究計画の明確化 10～14回目　研究ゼミナール 15回目　まとめ	1回目　出願時の研究テーマ（仮）の発表・討議 2～8回目　9回目の発表・討議に向けた、文献収集、文献の批判的検討、研究動機、研究背景、先行研究の状況、研究目的と意義、研究計画に関するゼミナール活動 9回目　研究課題の研究動機、研究背景、先行研究の状況、研究目的と意義、研究計画　発表と討議 10～14回目　15回目の発表・討議に向けた、研究計画立案のゼミナール活動 15回目　研究課題、研究計画発表と討議	演習	発表準備	1回目　全員 2～8回目　各教員 9回目　全員 10～14回目　各教員 15回目　全員

教科書	特に指定しないが、授業に必要な資料や参考書は、適宜、配布、または指示する。

参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士後期１／博士後期２／博士後期３
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菅原：研究室7　ksugawara@yachts.ac.jp　　桂：研究室9　skatsura@yachts.ac.jp 遠藤：研究室20　kendo@yachts.ac.jp　　安保：研究室15　hambo@yachts.ac.jp 齋藤：研究室1　misaito@yachts.ac.jp　　鈴木：研究室8　isuzuki@yachts.ac.jp
備考	看護学特別研究Ｉに関する各教員の指導テーマは下記の通りである。 〇菅原京子：コミュニティを基盤にしたヘルスケアに関する研究について指導する。具体的には、地域特性に応じた保健医療福祉サービス提供体制の中で機能する看護職者の役割に関する研究、難病療養者が必要なサービスを主体的に選択できるための体制整備に関する研究、「排除された人々」と称される複雑多岐に渡る課題を有する対象者への共生を目指した支援に関する研究を扱う。 〇桂　晶子：ヘルスプロモーションでは、個人の健康づくりに対する意識と個人を支える環境の整備が重要な視点であり、元気な中高年を対象とした健康づくりに焦点をあてて指導する。さらに個人のヘルスプロモーション活動を支援するためのソーシャルネットワークや、地域で展開されている様々な活動の構築について、具体的活動を通して研究を展開できるように指導する。 〇遠藤恵子：妊娠期から育児期にかけての児童虐待予防・早期発見や、性教育を含む性の健康といった次世代育成に関する研究について指導する。思春期や育児期にある当事者への支援と併せ、次世代育成に向けた支援体制の中での看護職者の役割を検討する。 〇安保寛明：訪問看護やＡＣＴ（包括型地域支援）の地域におけるケアの特徴や機能、精神障がいを有する人の住環境と住まいでの支援に関する研究、精神障がいを有する人へのニーズ調査や慢性疾患を有する人が抱える精神的困難に対する複合的支援などの見地から、指導する。 〇齋藤美華：高齢者とその家族に特徴的な健康問題の中で、看護実践上の課題や支援に関わる職種間連携のあり方、およびヘルスプロモーションのあり方などの課題を捉えながら研究を展開できるように指導する。 〇鈴木育子：在宅ケアにかかわる諸制度の中で機能する看護職者の役割に関する研究、在宅療養児・者、障がい児・者等が可能な限り質の高い地域生活を送ることができるようにするための看護職者の支援に関する研究の方法を指導する。

授業科目	看護学特別研究 II	科目英語表記	Specialized Graduate Research in Nursing II		
職名、担当教員氏名	教　授　菅原　京子 教　授　桂　　晶子 教　授　遠藤　恵子 教　授　安保　寛明 教　授　齋藤　美華 准教授　鈴木　育子				
科目責任者氏名	安保　寛明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士後期 2 年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択（選択必修）		
授業形態	演習	開講時期	通年	単位数	4単位
授業概要	看護学特別研究 I でまとめた研究課題、研究計画を基に実施した予備研究や本研究のデータに関するまとめと解釈に、主研究指導教員と副研究指導教員に加えて、院生の研究課題、研究計画に沿って、関係教員が加わりチームで当たる。				
到達目標	1.研究課題、研究計画に関する倫理的配慮を検討できる。 2.検討した倫理的配慮を倫理委員会の審査書類に記述できる。 3.倫理委員会で研究の概要と倫理的配慮を的確に述べることができる。 4.研究計画に沿ってデータを収集できる。 5.収集したデータを分析し、必要に応じてデータの追加収集を行うことができる。 6.データのまとめと解釈を行うことができる。 7.特別研究 I の研究計画及び特別研究 II のデータのまとめと解釈について発表できる。				
成績評価方法	授業への参加状況（30%）、準備状況（30%）、発表・討議（40%）をレポートで評価する。				
成績評価基準	到達目標　1～7 特に優れている　　：研究活動の内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に十分実践できる 優れている　　：研究活動の内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に概ね実践できる 良好である　　：研究活動の内容を理解し、論理的に正しく概ね実践できる 最低限の到達　　：研究活動について一部不十分な所もあるが、ある程度実践できる 目標に到達していない：研究活動を実践できない				
授業形式	演習				

授業計画

回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	①予備研究と本研究 ・研究テーマの設定 ・研究背景と目的 ・妥当な研究方法の選択 ・適切なデータ解析方法 ・倫理審査の受審 ②研究の実施 ・対象者の選択と協力要請 ・実験や調査の実施 ・研究結果の解析 ・目的に対応した考察 ③中間発表会	院生が選択した研究内容に応じて、教員が研究指導チームを編成して、資料の収集方法や研究実施方法、解析方法、結果の解釈などを定期的に指導する。 その指導の下、毎月の看護学分野会において、経過を発表し、データの解釈と統合を図る。	演習	自身の研究課題に関する国内外の研究報告などの情報収集に努め、絶えず情報を更新し、主研究指導教員と副研究指導教員の指示に沿って、積極的に研究を実行する。	全員

教科書	特に指定しないが、授業に必要な資料や参考書は、適宜、配布、または指示する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士後期 1 ／博士後期 2 ／博士後期 3

実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菅原：研究室7　ksugawara@yachts.ac.jp　　桂：研究室9　skatsura@yachts.ac.jp 遠藤：研究室20　kendo@yachts.ac.jp　　安保：研究室15　hambo@yachts.ac.jp 齋藤：研究室1　misaito@yachts.ac.jp　　鈴木：研究室8　isuzuki@yachts.ac.jp
備考	看護学特別研究 II に関する各教員の役割：看護学特別研究 I で作成した研究計画に基づき、データ収集、解析、解釈などを指導する。

授業科目	看護学特別研究Ⅲ	科目英語表記	Specialized Graduate Research in NursingⅢ		
職名、担当教員氏名	教　授　菅原　京子 教　授　桂　　晶子 教　授　遠藤　恵子 教　授　安保　寛明 教　授　齋藤　美華 准教授　鈴木　育子				
科目責任者氏名	安保　寛明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士後期２年／博士後期３年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択（選択必修）		
授業形態	演習	開講時期	通年	単位数	4単位
授業概要	看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを通じてまとめた研究成果を主研究指導教員と副研究指導教員に加えて、院生の研究課題、研究計画に沿って、関係教員が加わりチームを構成して博士論文として作成するための指導に当たる。				
到達目標	1.看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを通じてまとめた研究成果を博士論文として作成する上での、自己の課題と解決方法について意見交換できる。 2.博士論文の内容の一部を学術論文として作成し、学術雑誌への投稿に向けた準備ができる。 3.博士論文の構成を検討できる。 4.博士論文として、新規性、有効性、信頼性のある論文を作成できる。 5.論文審査において、審査委員からの指摘に的確に対応できる。 6.論文発表会において研究成果を発表できる。				
成績評価方法	授業授業への参加状況（30%）、準備状況（30%）、発表・討議（40%）をレポートで評価する。				
成績評価基準	到達目標　1～6 特に優れている　　：研究活動の内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に十分実践できる 優れている　　：研究活動の内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に概ね実践できる 良好である　　：研究活動の内容を理解し、論理的に正しく概ね実践できる 最低限の到達　　：研究活動について一部不十分な所もあるが、ある程度実践できる 目標に到達していない：研究活動を実践できない				
授業形式	演習				

授業計画

回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	①研究の実施 ・対象者の選択と協力要請 ・実験や調査の実施 ・研究結果の解析 ・目的に対応した考察 ②研究のまとめ ・博士論文の作成 ・博士論文発表の準備 ③論文発表会	・院生が選択した研究内容に応じて、教員が研究指導チームを編成して、論文構成、問題設定、研究方法、結果、考察、結論、文献および口頭試問に備えた対応、学術誌への投稿などを定期的に指導する。 ・その指導の下、毎月の看護学分野会において、経過を発表し、論文作成を促進する。 ・論文発表会は３分野合同で実施する。	演習	自身の研究課題に関する国内外の研究報告などの情報収集に努め、絶えず情報を更新し、主研究指導教員と副研究指導教員の指示に沿って、積極的に研究を実行する。	全員

教科書	特に指定しないが、授業に必要な資料や参考書は、適宜、配布、または指示する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士後期１／博士後期２／博士後期３
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内	

容	
教員の連絡先	菅原：研究室7　ksugawara@yachts.ac.jp　　桂：研究室9　skatsura@yachts.ac.jp 遠藤：研究室20　kendo@yachts.ac.jp　　安保：研究室15　hambo@yachts.ac.jp 齋藤：研究室1　misaito@yachts.ac.jp　　鈴木：研究室8　isuzuki@yachts.ac.jp
備考	看護学特別研究Ⅲに関する各教員の役割：看護学特別研究Ⅱで収集したデータの解析や解釈に基づき、博士論文作成を指導する。